

「モデルナアーム」女性は男性の4倍発生…年代別では30～60代が比較的高く

2022/6/7 読売新聞



米モデルナ製ワクチン

米モデルナ製の新型コロナウイルスワクチンの接種後に腕が腫れるなどする「モデルナアーム」という副反応について、症状が表れた女性は20%超で、男性の約4倍に上るとする調査結果を自衛隊中央病院などの研究チームがまとめた。論文が医学専門誌に掲載された。

「モデルナアーム」は、ワクチン接種の約1週間後に腕が腫れたり、赤くなったりする副反応。詳しい仕組みはわかっていない。

チームは、「自衛隊東京大規模接種センター」（東京都）で1回目の接種を受けた5893人について、2回目の接種時に行った問診内容を分析した。その結果、モデルナアームが起きた女性は22.4%で、男性（5.1%）の約4倍だった。女性は男性より発症日が遅く、症状が継続する傾向にあった。免疫反応の男女差が影響した可能性があるという。

男女合わせた年代別では、30歳未満が9.0%と最も低く、30～60歳代は15.8～12.6%と比較的高かった。70歳以上は10.5%だった。ほとんどの人は平均5日程度で症状が治まり、重い症状が出た人はいなかったという。

中山哲夫・北里大特任教授（臨床ウイルス学）の話「ワクチンの成分を解析すれば、副反応の原因がわかるかもしれない」

空路での米入国時、コロナ検査廃止と発表「もはや必要ないとCDCが判断」

2022/06/11 読売新聞

【ワシントン＝富山優介】米疾病対策センター（CDC）は10日、米国へ空路で入国する際、旅行者に新型コロナウイルス検査の陰性証明を求める措置を廃止すると発表した。12日から適用される。米国の観光・航空業界は、政府に廃止を求めている。



CDCは昨年1月、航空機に搭乗する3日前までに受けた検査での陰性証明を入国の要件とした。昨年12月からは、変異株「オミクロン株」の拡大を受け、対策強化として1日前まで短縮された。

米メディアは廃止の理由について「ワクチンや治療の普及によって検査はもはや必要ないとCDCが判断した」との米政府高官のコメントを伝えた。

CDCは今後90日間、感染状況を注視する方針で、新しい変異株が出現すれば陰性証明を求める措置が復活する可能性もある。